

20084

TF-TAVI に伴う弁輪破裂を含む多発合併症を生じ、救命できた一例

¹東京ベイ浦安市川医療センター

河野 裕志¹、渡邊 隼¹、森村 隼人¹、中永 寛¹、田端 実¹

演者の生年月日：1984年1月2日【治療経過】症例は76歳女性。心機能低下を伴う重度大動脈弁狭窄症(2尖弁)に対する治療目的に他院より転院となった。入院後に心不全が増悪し術前にPCPSを留置した。2016年11月にTF-TAVIを施行し、術直後にはPCPSを離脱できたが中等度の弁周囲逆流が残存した。手術翌日に循環動態が破綻したためPCPSを再留置した。PVLに対して経心尖部アプローチのコイル塞栓による治療を試みたが、十分な効果が得られず手技中に弁輪破裂を生じ緊急大動脈弁置換術および弁輪形成術を施行した。また、手術中にPCPS留置が原因と考えられる逆行性の急性大動脈解離を併発し、胸部ステントグラフト内挿術(Zone2)を同時施行した。さらに術後出血性脳梗塞と肝・腎機能障害を合併し治療には非常に難渋したが、最終的には救命することができ術後70日でリハビリ病院へ転院となった。現在も他院にて療養中である。【結語】TAVIに伴う同時多発的に発生した非常に重篤な合併症に対処し、救命することができた。

日時 月 日 (第 日)	セッション		会場		時 分～ 時 分
--------------	-------	--	----	--	----------

受付番号

演題番号